

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和２年度 第２回近江八幡市総合教育会議		
開催日時	令和２年 １ 月 ２ ７ 日（金） １３時３０分 ～ １４時３０分		
開催場所	近江八幡市役所３階 市長応接室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	出席者（敬称略） 市 長 小西 理（◎） 教育長 日岡 昇 教育長職務代理者 久家 昌代 教育委員会委員 八耳 哲也、西田 佳成 （欠席者）教育委員会委員 安倍 映子 ◇傍聴者 ０名		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所属名、担当者名 総合政策部企画課 森 電話番号 ０７４８－３６－５５２７ メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

事務局	1. 開会
市長	2. あいさつ ● 総合教育会議は方針を決めていく大事な会議なので忌憚のない意見をいただきたい。本市の進んでいく方向をしっかりと定めていきたい。
教育委員会事務局	3. 議題 (1) 就学前施設の在り方について ● 教育委員会から各中学校区における教育委員会としての、就学前施設の在り方について、経過報告。
市長	● 将来の見通しを立てていかなければ施設建設が間に合わないこととなるため、方向性を決めたい。 ● 核家族化が進んでおり、就学前教育の役割が変化してきている。就学前教育については、従来よりも重要である。 ● 国の方針としては公立離れであり、私立には補助金が交付される。公立で運営していくことは、財政的にも厳しく維持していくのは難しい。 ● 市としては、公立を拡大、もしくは公立を主体的に進めていくのは難しいと考えている。 ● 就学前教育施設の在り方について、各中学校区ごとに意見を伺ってきたい。初めに、八幡中学校区についてご意見を伺いたい。
委員	● 教育大綱、教育指針に基づいた教育を行うためには、小中学校で一貫し、連携して進めることが大事ではないかと考えると、公立が必要でないかと考える。子どもの育ちのつなぎを見届ける義務と責任を果たすために公立の施設が不可欠である。 ● 地域の子ども達を受け入れ、地域に根差し、地域の人々と共に歩んでいくことができ、本市ならではの教育方針を貫くことが出来るのは公立でないかと考える。 ● 八幡中学校区としては、八幡の教育方針を貫くためにも、八幡幼稚園、八幡保育所が基盤となって、私立をひっぱっていてももらえればと思う。両施設の老朽化や長寿命化計画にも入ってくるので、同じ支出をするのであれば、公立のこども園も良いのではないかと考える。
委員	● 公立園は残して欲しい。私立が悪いという意味ではなく、お勉強という面が強く、子どもらしさにかけるのではないかと保護者目線で感じた。

	地域の幼稚園に歩いて行って、園から地域の公園や神社に出かけ、四季折々の自然などに触れることが出来るのは公立だと思う。 ● 今のお母さんは働かれている方が多いので、公立のこども園があれば良いと思う。
委 員	● 八幡中学校区は、公立こども園が良いと思う。八幡学区は歴史的に深い町であるので、ふるさと教育と考えると、教育委員会の思いに結びつきやすいと考える。
市 長	● 私の考え方としては、一定公立が必要と思っている。八幡幼稚園、保育所をこども園化出来るかわからないが、公立があっても良いのではないかと考える。 ● 次に、八幡東中学校区についてご意見を伺いたい。 ● 武佐こども園は、公立という選択肢しかない。 ● 馬淵幼稚園は、園児数が少ないので存続が危ういが、私立でこども園化というのは、現状難しい。金田学区については、民営の保育所が 2 園その間に幼稚園があるが、金田は民営で良いのではないかと考えている。公立である必要はない。 ● 金田もこども園化の方向になるのではないかと。
委 員	● 市全体の就学前教育を取りまとめる、幼児教育センター機能を、位置的にも市の中心である金田幼稚園に公立のまま持たせることが重要であるという強い想いを委員は持っておられるのではないかと思います。
市 長	● 次に八幡西中学校区についてご意見を伺いたい。
委 員	● 八幡西中学校区では、私立のこども園が 2 園出来る。この 2 園で保育希望の園児が入園できるのであれば、それでいいのかなと考える。桐原学区には、住宅が増えてきているので、桐原保育所は残してもいいのかなとは思う。もし、北里幼稚園と一緒にするのであれば、北里幼稚園の学区から通われる方は遠くなることになる。保護者としては近くの幼稚園に通いたいと思われるのではないかと思いますので、そう考えると難しい。
委 員	● 桐原と北里と一緒に考えると、距離が離れているので難しいのではないかと。保護者の立場で考えると、住んでいる場所が遠いと通園が大変である。もし、一緒にするならば、通園バスのような、通園手段があるのであれば、保護者の方も納得されるのではないかと思います。

委 員	● 各中学校区に一つ、小中学校への進学に向けた、足並みを揃えた就学前教育の場として、公立は必要であると思う。距離的な問題などあるかもしれませんが、桐原保育所と北里幼稚園を、公立こども園として整備してもらえればと思う。 ● 公立私立にかかわらず他の園は、地域の小学校と連携をとられているが、新しく出来た私立のこども園が、隣にある桐原小学校と交流や連携がされているのかと心配されておられる保護者の話を聞くと、公的な就学前施設を確保すべきかと考える。
教育長	● 本来中学校区に一つ、公立の施設があればよいという思いは持っている。桐原学区には、私立のこども園が 2 園出来る。仮に、北里に近い桐原学区内に公立こども園が出来たら、公立を選ばれて通われる方もおられると思う。西中学校区では、公立幼稚園がなくなる状況であるので、公立で頑張られた幼稚園の先生方の思いを西中学校区全体に反映していただけることが一番よいのではと思う。
市 長	● 基本的には、北里も公立民営問わず、こども園化が望ましいと思っているが、公立でとなると、現状としてはハードルが高いので、民営でもよいのではと考えている。そうすると、当面の桐原保育所については、公立で維持すべきであると考えている。 ● 教育長がおっしゃられる通り、中学校区に一つ公立があるのは望ましいが現状としては、難しいのではと考える。 ● 次に、安土中学校区についてご意見を伺いたい。
委 員	● 安土中学校区には、老蘇に公立こども園、安土に私立の保育園がある。安土幼稚園をどうするのかという話になってくるのですが、ほとんどの方が共働き世帯で、住宅開発も進んでおり、新しいご家族が来られ、子どもさんが通園されることとなる。先ほど市長がおっしゃられた通り、核家族化が進んでいるので、安土もこども園化の方向になってくると思われる。私立か公立かという話になってくるが、安土で公立をなくすとなると心配される方が出てくるのではないかと思う。
委 員	● 安土小学校がどこに建設されるかによって方向性が変わってくる。安土の方は、地域への思いが強いので、どこに建てるかなど慎重に進めていくべきである。
教育長	● 安土中学校区だけにかかわらず、保護者ニーズが変わってきている。昨年度から、保育所の入所数が幼稚園の入園数を上回った。これから、ま

	すまず顕著になってくると思われる。こども園化も考えていかないといけないと思う。幼稚園は研修があるが、保育所では研修がない。金田学区か八幡学区に就学前教育施設となる幼児教育センターが必要であり、民間と公立で切磋琢磨する研修をしていってもらえればと思う。 ● この数年、全幼保現場を対象に代表者に研修の機会を設けているが、一団体だけ来られていない。教育センター的なものがあって、代表の方だけでなく、一般の先生方が一緒に学んでいただきたい。長寿命化計画などで今後の方針をしっかりと計画していかなければならない。公立の幼稚園は国の補助が全くないが、こども園であれば補助があると聞いている。公立で建設するのであれば、何としてでも維持していかないといけないという覚悟が必要である。
市 長	● 安土については、こども園化になっていくだろうと思う。公立か民営かは分からない。幼児教育センターについては、非常に興味もあり、必要であると考え。対外的に市としてアピールする場が必要であり、近江八幡では、こういう教育をしていますよと、打ち出せるものがあるべきである。幼児教育が優れているというのは、市としての魅力の一つとなる。 ● 勉強を教えて欲しいという保護者が相当数おられ、のびのびと育てたいという保護者もおられる。公立は公立の良さ、私立は私立の良さがあると思う。
委 員	● 公と民の共存は避けられない。各学区で、公立の柱を残していただきたい。公立で、就学前教育をリードしてもらい、教育方針を貫いてもらう必要がある。保育指針を作成された時には、公と民が入って一緒に作られている。今後、検証が必要となってくると思うので、同じように公と民が入った形で検証、分析を進めていって欲しい。公の意見だけでなく、民の意見を取り入れ、公と民が足並みをそろえて、ともに歩いていって欲しい。
委 員	● 昔は、小学校入学前に幼保の交流があった。公立でも民営でも交流が必要であり、お互いの良いところを取り入れて行って欲しい。
委 員	● 公立も私立もそれぞれ特徴があると思う。子ども達にとって、良いこども園、保育園であるべきで、同じ方向を向いて、子ども達に接することが出来るよう、どの施設でも取り組んで欲しい。
教育長	● 以前は、教育研究所に幼稚園の先生に入ってもらって、センター的な働

きをしてもらっていたこともある。幼稚園が教育委員会から幼児課に切り離された時から、教育研究所の中に幼稚園の先生がおられなくなったというのが大きいと思う。幼児教育センターが出来ないのであれば、教育研究所の方に幼稚園の先生を入れてやっていくというやり方もある。近隣の市町では、幼稚園保育所の園長にそういう役割を担ってもらっているという話も聞くので、そういったやり方もある。

市 長

- 本日の議題は以上となる。活発な議論をありがとうございました。次回も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
- 最後に連絡等があればお願いしたい。

事務局

- 次回の開催については、改めてご案内させていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

終了 14時30分